

EU Indicators

欧州経済指標コメント：9月ユーロ圏消費者物価(確報)

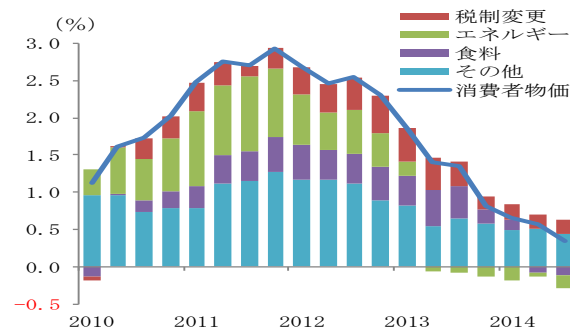
発表日：2014年10月17日(金)

～遠退く物価の反転～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

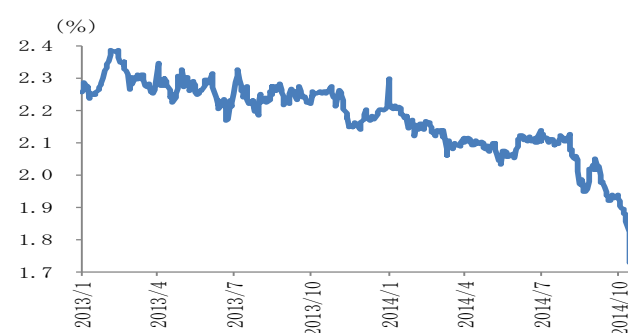
- 9月のユーロ圏の消費者物価の確報値は前年比+0.3%と速報値から不変(前月は同+0.4%)。費目別の内訳は、食料品(前月：同▲0.9%→今月：同▲0.2%)の下落率が縮小、たばこ価格(同+2.1%→同+2.3%)の上昇率が拡大した一方で、エネルギー価格(同▲2.0%→同▲2.3%)の下落率が拡大したほか、コア物価(同+0.9%→同+0.8%)の上昇率が鈍化し、全体の物価上昇率を押し下げた。
- コア物価の内訳は、衣服(同+0.9%→同+0.3%)、家財道具(同+0.2%→同ゼロ%)、医療(同+1.2%→同+1.1%)、通信(同▲2.9%→同▲3.3%)、娯楽(同+0.3%→同+0.1%)、雑費(同+0.8%→同+0.7%)など、幅広い費目で前月から上昇率が鈍化ないし下落率が拡大した。
- 国別には、ドイツ(同+0.8%→同+0.8%)が前月から横這い、イタリア(同▲0.2%→同▲0.1%)、スペイン(同▲0.5%→同▲0.3%)、ポルトガル(同▲0.1%→同ゼロ%)で下落率が縮小した一方で、フランス(同+0.5%→同+0.4%)、オランダ(同+0.4%→同+0.2%)、オーストリア(同+1.5%→同+1.4%)、ベルギー(同+0.4%→同+0.2%)、キプロス(同+0.8%→同ゼロ%)で上昇率が鈍化、ギリシャ(同▲0.2%→同▲0.1%)で下落率が拡大し、全体の計数を押し下げた。
- 原油相場が足許で急落。エネルギー価格の下落率は目先一段と拡大する恐れが高まっている。コア物価の上昇率は“前年比の裏”要因で押し上げられる可能性があるものの、エネルギー価格の下落率拡大が響き、年内の消費者物価は前年比+0.5%未満の低インフレが継続する可能性が高い。期待インフレ率のさらなる下方屈折も進んでおり、ECBに対する追加緩和要求が高まりやすい状況が続こう。

■ユーロ圏の消費者物価の要因分解(前年比)



出所：Eurostat

■ユーロ圏：5年先の5年後の期待インフレ率



出所：Bloomberg資料より第一生命経済研究所が作成

■ユーロ圏の消費者物価(%)

		2013				2014								
		4Q	1Q	2Q	3Q	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
消費者物価	(前期比)	-0.1	0.2	0.0	0.2	0.1	-0.0	0.0	-0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	
	(前年比)	0.8	0.7	0.6	0.4	0.7	0.5	0.7	0.5	0.4	0.4	0.4	0.3	
コア消費者物価	(前期比)	0.8	0.8	0.8	0.8	1.0	0.7	1.0	0.7	0.8	0.8	0.9	0.8	
	(前年比)	1.3	0.9	-0.5	-0.7	1.0	0.5	0.1	-0.6	-1.1	-1.0	-0.9	-0.2	
食料品	(前期比)	2.7	2.6	2.2	2.1	2.4	2.5	2.2	2.3	2.0	2.1	2.0	2.0	
アルコール	(前期比)	4.0	3.9	3.6	2.2	4.1	3.7	3.7	3.6	3.7	2.3	2.1	2.3	
たばこ	(前期比)	-0.9	-1.9	-0.4	-1.8	-2.3	-2.1	-1.2	-0.0	0.1	-1.0	-2.0	-2.3	
エネルギー	(前期比)													

注：消費者物価の前期比は季節調整後。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。 出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。